

医者も知らない平穏死



連載50

パーソンセンタード・ケアは、認知症の人の内面を理解し、尊厳を支え、ありのままの姿に向き合おうという考えのこと。1990年代に英国の心理学者トム・キッドウッドが提唱した認知症ケアの基本概念です。

認知症になって何もかも分からなくなるのは、かなり末期になってから。だから、家族が認知症になっても、「認知症だからXXXできない/させてはいけない」と考えるのではなく、普通の人の同じようにあるがままの生活をキープすることが大事なことです。

私が思う認知症ケアのポイントは、①口から食べること②トイレで排泄すること③これまで通りお風呂に入ること。

認知症が進行すると、介護者にとってどれも非常に大変なことになります。その結果、経管

認知症だって普通の人と同じ生活を

〈長尾和宏〉長尾クリニック院長・日本尊厳死協会副理事長。著書「『平穏死』10の条件」など。栄養や胃ろう栄養にしてしまったり、オムツをつけさせたりしてしまふ。施設では、機械で特殊浴場に入れるか、プールのように広い大浴場に入れるかのどちらかです。

でも、やっぱり一番気持ちいいのは、①③の普通の人と同じ生活。認知症の人とその介護者の人たちが集う「つどい場さくらちゃん」の皆さんがおっしゃっていました。普通の生活を保つケアを心掛けることで、認知症の方によく見られる大声を出したり、激しい妄想に襲われたりといった周辺症状は徐々になくなるそうです。

実は私も「つどい場さくらちゃん」の人々と出会うまでは知りませんでした。もちろん、認知症が進行した人に、普通の生活をしてもらうことがいかに大変かは十分承知しています。

でも、「食べられないから胃ろう」と結論つける前に、「本当に食べられないのかな」と疑問を持ち、専門家の手を大いに借りて、考えてほしいのです。

